

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年 5月10日現在

機関番号：10101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23651262

研究課題名（和文）インドネシアの女性家事労働者研究

研究課題名（英文）A study of Indonesian women domestic workers

研究代表者

横本 真千子 (YOKOMOTO MACHIKO)

北海道大学・大学院経済学研究科・研究員

研究者番号：70463726

研究成果の概要（和文）：本研究は、農村から都市または海外へ出稼ぎを行うインドネシアの女性家事労働者について、その送り出し・受け入れシステムの構造、そして、そのシステムの担い手である女性家事労働者の特色を明らかにし、女性労働市場に内在する問題点を考察した。このことは、女性労働者の送り出し国であるインドネシアと受け入れ国である香港で実施したインタビュー調査に基づいて女性家事労働者の出稼ぎの構造を分析することによって実現した。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the structure of a system in which sends and receives Indonesian women domestic workers going work away from their homelands to the big cities in their country or another country. In addition, this study clarified characteristics of the workers and examined the issue of women labor market in Indonesia. This study analyzed their migrant structure based on interviews with the workers in their home country and Hong Kong which is a country of their destination.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 交付決定額 | 2,200,000 | 660,000 | 2,860,000 |

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：女性家事労働者、インドネシア、香港、出稼ぎ

1. 研究開始当初の背景

平成19年に日・伊経済連携協定が署名され、我が国においてインドネシアの看護師・介護士への注目が高くなった。しかしながら、関心の多くは、彼女たちの日本での生活ぶり、施設や労働への適応、困難とされる国家試験への取り組みなどが主たるものであり、彼女たちの出身国であるインドネシアの経済状況、さらには都市と農村との間の地域間格差などには関心が及んでいない。東南アジアにおいてインドネシアはフィリピンに続く女性労働力送り出し国であり、その多くはケア労働に従事する女性家事労働者である。日本への看護師・介護士派遣はこうした海外労働力移動の一潮流をなすものである。介護・ケ

ア労働を含む女性家事労働者の国際移動に関しては、これまで国際比較の観点およびジェンダー論の観点からいくつかの研究がなされてきた。例えば、ジェンダー論からの研究としては、久場嬉子編著『介護・家事労働者の国際移動』日本評論社2007年および伊藤り・足立眞理子編著『国際移動と＜連鎖するジェンダー＞』作品社2008年などがある。しかし、なぜ女性家事労働者なのか、そしてなぜ女性家事労働者が農村から都市へさらには海外へと移動するのか、といったことが地域研究の視点からあるいは女性労働力市場の視点から提示されているとはいえない。

現実には、農村から都市への女性の労働力

移動の大部分は女性家事労働者であるにも関わらず、労働市場における女性家事労働者の位置づけを論じるものは少ない。グローバル化の側面からは、海外出稼ぎ労働力の主体が男性から女性へと転換し「移動の女性化」と呼ばれるに至ること、さらに新国際分業の進行により先進国において高度技術サービス業に従事する女性が増加する一方で、途上国からは先進国に向けて未熟練製造業およびサービス業労働者が移動することが論じられている。しかし、農村から直接あるいは都市を経由して海外に出稼ぎに行く女性家事労働者に関して、途上国における農村-都市関係あるいは就業構造にまで踏み込んで議論されているとは言いがたい。

本研究において、上述した「なぜ女性家事労働者なのか」そして「なぜ女性家事労働者が農村から都市へさらには海外へと移動するのか」の視点に立ち、その要因をインドネシアの農村から見つめ直す作業をおこなう。これまで調査されることの少なかったインドネシア農村の地域経済と地域労働市場さらに女性の世帯構造における女性家事労働者の位置づけをおこなうことによってこれらの問を明らかにしていくことが求められる。

2. 研究の目的

インドネシアの女性家事労働者に焦点を当て、農村の女性労働力市場と都市(さらには海外)への送り出しシステムを分析することを目的とする。具体的には、出身農村から都市への入職システム、就業実態、就業経験などの就業構造、女性の学歴や職歴構成、女性の出身農村世帯の家族・家計構成および出身地域の産業構造、さらに女性家事労働者のライフサイクルなどを経済学的に分析する。インドネシア女性労働力市場において、農村出身の女性家事労働者は、階層化がすすむ低層部に位置し、上位に位置する都市エリート女性を下支えする。さらには、国内における女性の上位労働市場・下位労働市場の構造が、国際労働力市場の形成により国際的に再編されることを明らかにする。最後に、地域産業の振興による地域労働市場の形成が重要であることを提示する。

3. 研究の方法

本研究は、現地調査を二段階に分けておこなう。

まず、第一段階として研究初年度にはインドネシアにおいて調査をおこなう。出稼ぎ労働者の実際の送り出し農村での世帯調査ならびに地域経済調査、そして女性労働者の就学機会と就業機会について調査をおこなうことで、労働者の特質を明らかにする。さらに、都市で働く農村出身女性家事労働者の出

身地域とのつながりや送金の方法、労働条件および労働法の遵守状況などを考察する。これによって、農村出身の女性家事労働者と雇い主(都市の女性)との経済的・社会関係を明らかにする。

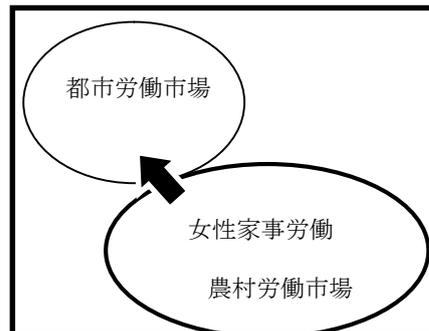
第二段階として、次年度にはインドネシアの農村から海外への労働移動を調査するために、香港において家事労働者として働くインドネシア女性家事労働者の調査をおこなう。香港においても送り出し農村との関連に焦点をあてて同様の調査をおこなう。

本研究の期間は2年間とし、現地(インドネシアと香港)での調査を分析の基本とし、調査によって得られた情報に基づいてアジア地域の労働市場に関する理論を構築する。

(1) 研究初年度

研究初年度にあたる平成23年度は、インドネシア農村において女性家事労働者の調査をおこなう。現地調査は、バンドン市の女性家事労働者派遣業者が実際に家事労働者の募集をおこなっている農村においておこなう。バンドン市の家事労働者派遣業者については、すでに平成20年7月から8月にかけて予備調査をおこなっており、本研究は平成20年の調査をもとに女性家事労働者の出身農村においてより詳細な調査をおこなう。調査地域は、ジャワ島における女性家事労働者の最大出身地域である東ジャワ州ンガウイ県とし、農村において50人程度の女性家事労働者の家計調査をおこなうことによって女性家事労働者の出身階層を明らかにする。さらに出身農村の経済構造、産業構造そして労働市場について調査をおこなう。

【平成23年度インドネシア調査】

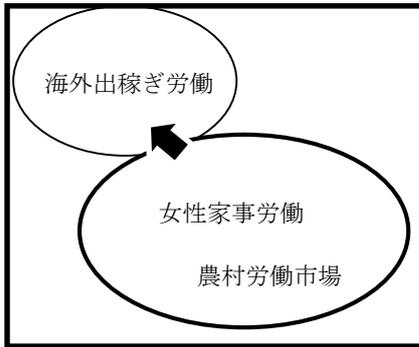


(2) 研究次年度

研究次年度にあたる平成24年度は、香港においてインドネシア人家事労働者を対象にインタビュー調査をおこなう。香港はインドネシアから多くの女性家事労働者の渡航を受け、家事労働者に労働市場を開放している。香港においてインドネシア人女性家事労働者50人程度のインタビュー調査をおこなうことによって女性家事労働者の出身階層を明

らかにする。さらに出身農村の経済・社会的関係および労働市場について調査をおこなう。

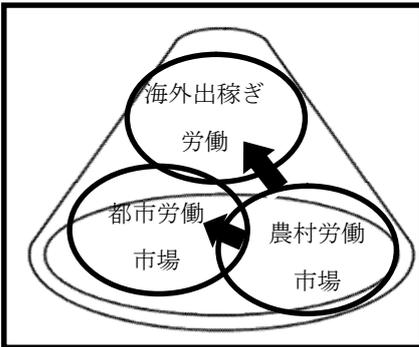
【平成 24 度香港調査】



(3)理論構築

二年間の研究期間で蓄積した女性家事労働者に関する資料とインタビュー調査資料にもとづいて、従来の理論とは異なる女性家事労働者の視点からの理論の構築を目指す。そして、国内における女性労働市場の構造が、国際労働力市場の形成により国際的に再編される可能性を示す。

【理論構築】



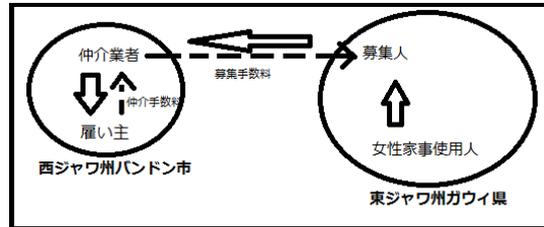
4. 研究成果

本研究は、インドネシアの女性家事労働者に焦点を当て、農村の女性労働力市場と都市さらには海外への送り出しシステムとその問題点をおもに女性家事労働者へのインタビュー調査から考察した。

(1)研究初年度である平成 23 年度には、バンドン市の女性家事労働者派遣業者において平成 20 年度に実施した女性家事労働者調査の追跡調査をおこなった。女性家事労働者の海外出稼ぎがいつそうすすむ中で、国内向けに女性家事労働者を仲介する派遣業者を中心に構成される女性家事労働者の入職システムを分析し、そしてインタビュー調査によって女性家事労働者の特色を明らかにした。

農村出身の女性家事労働者が都市で働くための入職ルートとして仲介業者が存在す

る。実際に農村において家事労働者の調達をおこなうのは募集人である。若年で低学歴および縁故をもたない農村出身女性は正規の労働市場に参入することが困難であるため、同郷出身の仲介業者と募集人による家事労働者の入職ルートによって都市への出稼ぎの機会を得る。



また、50 人の女性家事労働者を対象におこなったアンケート調査をもとに、女性家事労働者の就業形態、学歴および職歴構成、女性家事労働者の出身農村世帯の家族・家計構成および出身地域の産業構造、さらにライフサイクルについて考察をおこなった。本研究により、農村出身の若い女性が賃金の高い海外出稼ぎを好む傾向のある中で、既婚の子持ちあるいは介護が必要な親をもつ女性は国内で働くことを選択するという傾向を把握することができた。

(2)平成 24 年度には、インドネシアの女性家事労働者の海外への送り出しシステムを調査するために香港においてインドネシア人女性家事労働者にインタビュー調査をおこなった。聞き取りから、海外出稼ぎ者のライフコースや香港での就業および生活実態が明らかになった。すなわち、出稼ぎ者は出身地での就業機会および就業から得られる賃金が少ないため出稼ぎに出ることが選択する。しかしながら、高校卒業あるいはそれ以上の学歴を有していても都市における農村出身者の就業機会は著しく限定的であるため、海外出稼ぎに活路を見出している。

調査から、海外出稼ぎの特色として各出稼ぎ者の出稼ぎ先は複数国にのぼり、渡航先の変遷から出稼ぎ者の出稼ぎに対する考え方を把握することができた。また、出稼ぎの派遣システムに内在する問題点も明らかとなった。

平成 23 年度に実施したインドネシア国内での調査と 24 年度に実施した香港の調査から、国内の女性家事労働者の問題が海外出稼ぎに拍車をかけていることが明らかになった。本研究は、女性家事労働者の送り出し国および送り出し農村と女性家事労働者の受け入れ国の双方で調査をおこなったことによって、両者を比較検討することが可能となり、インドネシア女性家事労働者のインドネシア国内およびアジア地域内での就業構造

を考察することが可能となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

横本 真千子「インドネシアの女性家事使用人-バンドン市における仲介業者の調査によせて-」北海道大学経済学研究科『経済学研究』, 査読無, 第62巻第3号, 123-138頁, 2013年2月。

〔図書〕(計1件)

横本 真千子「インドネシア共和国における地方分権のプロセス」, 桑原真人・山田玲良・石井聡・横島公司編『北海道と道州制—歴史と現状・国際比較—』研究叢書2, 223-243頁, 札幌大学附属総合研究所, 2012年3月。

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横本 真千子 (YOKOMOTO MACHIKO)

北海道大学・大学院経済学研究科・研究員

研究者番号：70463726

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし